

石川工業高等専門学校	開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	歴史ⅠⅠ
科目基礎情報				
科目番号	15330	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	環境都市工学科	対象学年	2	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	『世界の歴史A』(山川出版) 『グローバルワイド最新世界史図表』(第一学習社) 『私たちが拓く日本の未来』(総務省・文科省)			
担当教員	佐々木 香織			
到達目標				
1.	近代の社会制度・政治制度の変遷について理解できる。			
2.	帝国主義と国民国家形成との関係が理解できる。			
3.	列強諸国の世界進出に日本も深く関わっていることが理解できる。			
4.	東アジアをめぐる列強諸国と日本との関係が理解できる。			
5.	近代日本の外交について理解できる。			
6.	二度の世界大戦における各国の立場を理解できる。			
7.	大戦後、独立するまでの日本の状態を理解できる。			
8.	歴史的事象に関わる日本および世界の地理の知識を得る。			
9.	適切な資料を調査し、必要な情報を取捨選択できる。			
10.	調査した資料を私見を交えず客観的にまとめることができる。			
11.	歴史的事象について考察したことを論理的に表現、記述できる。			
12.	現代世界の諸問題を自らの問題として考察する力を養う。			
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 項目1,2,3,4,5,6,7,	歴史的事象について読み解き・表記・説明でき、それらを自分の問題として考察できる	歴史的事象に関する語句を正しく読み解き・表記し、意味を説明できる	歴史的事象に関する語句を正しく読み解きできない。意味が説明できない。	
評価項目2 項目8	世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得、地図上に表記できる	世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得る	世界史・日本史で学ぶ国や地域の名称を知らない	
評価項目3 項目9,10,11,12	現代の諸問題を自らの問題として考察する姿勢をもち、歴史的事象について適切な資料を調査収集し、必要な情報を取捨選択して私見を交えず客観的にまとめ、その内容について考察したことを論理的に表現・記述できる	歴史的事象について考察したことを見理的に表現・記述できる	歴史的事象についての知識がない	
学科の到達目標項目との関係				
本科学習目標 1 本科学習目標 3				
教育方法等				
概要	これらの技術者は、多様化する現代社会に対応し国際社会や自然環境への理解を深め、幅広い視野を持つ必要がある。そこで本授業では、近現代の世界・日本の歴史を総観することで知識を高め、それに基づいて現代の諸問題を主体的に考察し、自らの考えを論理的に表現する基礎学力を養うことを目標とする。			
授業の進め方・方法	到達目標を達成するため、随時、地図作業、論述文作成を課す。			
注意点	【評価方法・評価基準】 成績の評価基準として50点以上を合格とする。試験は中間試験、期末試験の2回行う。 成績評価の割合は以下の通り。 前期中間試験(40%)、前期末試験(40%)、レポート課題(10%)、ノートテイキング(10%) 事項の暗記に終始せず、出来事の成り立ちやそれぞれの影響関係についてよく整理しておくこと。 また、それを明晰な文章で表現できる力を身につけること。 課題は必ず提出すること。			
テスト				
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	イギリス産業革命	産業革命が技術や経済、交通だけでなく、社会階層や思想にも影響を及ぼしたことについて理解できる。
		2週	ナショナリズムとその時代	ナポレオンの大陸支配によって、ヨーロッパにおいてアイデンティティとナショナリズムが自覚されていった経緯について理解する。
		3週	イタリアとドイツの統一	ナショナリズムによって誕生した国家を具体的に理解できる。
		4週	列強のアジア進出とアヘン戦争	帝国主義がアジアに及ぼした影響について理解できる。
		5週	幕藩体制の構造	帝国主義の影響が日本にも及び、内乱の原因となったことが理解できる。
		6週	江戸幕府の対外政策	日本国内にも開国派と攘夷派の対立があったことを理解できる。
		7週	幕末の動乱と明治維新	明治維新までの推移についての知識を得、明治政府の対外政策について理解できる。
		8週	日清戦争	明治政府の対外政策が帝国主義に基づいて行われたものであることを理解できる。
4thQ	9週	情報リテラシー指導	ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	
	10週	日露戦争と辛亥革命	日本が列強国を目指す過程とアジアの動向について理解できる。	

	11週	第一次世界大戦とヴエルサイユ条約	第一次世界大戦の動向と、それが現代に及ぼした影響について理解できる。
	12週	世界恐慌とファシズムの台頭	アメリカで起きた恐慌が日本を含む世界に及ぼした影響について理解できる。
	13週	第二次世界大戦	第二次世界大戦における日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。
	14週	戦後日本と主権者の在り方	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。
	15週	後期復習	複雑な事象の本質を整理し、構造化し、結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に表現できる。
	16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	4	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
			公民的分野	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
				人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
			現代社会の考察	自分が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
				現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	1	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	1	
				他者の意見を聞き合意形成ができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	2	
				複数の情報を整理・構造化できる。	1	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	1	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	1	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	

## 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	10	10	100
基礎的能力	40	0	0	0	5	0	45
専門的能力	30	0	0	0	0	5	35
分野横断的能力	10	0	0	0	5	5	20